

# 二〇一六年度大学入試センター試験 解説 〈現代文〉

## 第1問 評論 土井隆義 『キャラ化する／される子どもたち』

### 〔総括〕

昨年のテーマ同様、今年も受験生にとって身近な現代的テーマの文章だった。価値観が多様化した社会における現代人のあり方について述べた文章であり、「内キャラ」「外キャラ」というあまりなじみのない語がキーワードになっているが文章は平易で、文章量も昨年よりも一割以上減少しているので、読解するのにそれほど時間はとられなかったはずだ。

設問別では、問1の漢字は実力が問われる問題が並んだ。問2～問4までは、傍線部の説明問題で基礎～標準レベル。問5の生徒が「誠実さ」を話題にして発言をしているの中から正解を選ぶ問題は96年度などにも出題された形式だが、近年にはなかったもので、新課程を意識した問題か。問6は昨年の「八つの選択肢から二つを選ぶ」形式から、一昨年までの「小問二題構成で各一つを選ぶ」形式に戻った。(i)では文章の表現を問い、(ii)では文章の構成・展開を問うているが、両方とも「適当でないもの」を選ぶ点が特徴的だ。

### 〔解説〕

#### 問1 漢字問題 基礎～標準

傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、それぞれ選べ。

(ア)と(ウ)が「訓」の漢字を「音」で解答する問題。意味を理解していないと解けない点で、日頃から漢字に関して多角的な勉強を積み重ねておくことが望ましい。消去法でも解けなくはないが、このレベルの漢字に関してはすべて自力で書ける力を付けておいてほしい。

(ア)の正解の㉔「営繕」は「建築物の营造と修繕」のこと。(イ)の「収束」は「分裂したり、混乱したりしていたものが、まとまって収まりがつくこと」と。(ウ)の「顧みる」は「振り返る」意であり、「反省する」意の「省みる」ではない。(エ)は㉓を「展開」と取ってしまうと正解がなくなるので注意。(オ)の「縮減」は「計画・予算などの規模を減らし小さくすること」。その意味がわからないと㉕の「緊縮」が選べない。

問2 傍線部説明問題 基礎

- |     |      |      |     |      |       |      |
|-----|------|------|-----|------|-------|------|
| (ア) | 繕う   | ①漸増  | ②全容 | ◎③宮繕 | ④学生然  | ⑤禪問答 |
| (イ) | 収束   | ①反則  | ②促進 | ③閉塞  | ④一触即発 | ◎⑤束縛 |
| (ウ) | 顧みても | ①故意  | ②古式 | ◎③鼓舞 | ④孤独   | ◎⑤顧慮 |
| (エ) | 回避   | ①大会  | ②大海 | ◎③転回 | ④下界   | ◎⑤開陳 |
| (オ) | 縮減   | ①祝して | ②肅肅 | ③宿敵  | ④淑女   | ◎⑤緊縮 |

- 正解 (ア) ① ③ (イ) ② ⑤ (ウ) ③ ⑤ (エ) ④ ③ (オ) ⑤ ⑤

傍線部A「リカちゃんの捉えられ方が変容している」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを一つ選べ。

第2段落冒頭に、「しかし」と逆接の接続詞があることに着目する。第1段落での「かつてのリカちゃん」と、「しかし」以下の「平成に入ってからのリカちゃん」の違いが解答のポイントになる。「対比」をつかんで解く問題だ。

第1段落：「かつてのリカちゃん」の捉えられ方

しかし(逆接) ⇔

第2段落：「平成に入ってからのリカちゃん」の捉えられ方↓傍線部A「変容している」

そこで傍線部Aの説明としては、まず第1段落での「かつてのリカちゃん」の捉えられ方を押さえ、次に第2段落の「平成に入ってからのリカちゃん」の捉えられ方を押さえる。

○「かつてのリカちゃん」の捉えられ方

- ・子どもたちにとって憧れのスタイルを演じてくれるイメージ・キャラクター。
- ・設定された物語の枠組のなかで、「ごっこ遊び」を楽しむもの。

○「平成に入ってからのリカちゃん」の捉えられ方

- ・物語の枠組から徐々に解放され、別のキャラクターを演じるようになった。
- ・特定の物語を背後に背負ったキャラクターを脱して、どんな物語にも転用可能なプロトタイプへと変化した。

以上をつかめれば、正解は①と決まる。

②は、前半の説明はよいが、後半の内容が間違っている。「世代ごとに異なる物語空間を作るものへと変わっている」とは本文に書かれていないので×。

③は、後半の「国民的アイドルといえるものへと変わっている」が×。第1段落に書かれているように、リカちゃんはそもそも「世代を越えた国民的アイドル」なので、平成になって「国民的アイドル」に変わったものではないので×。

④は、②と同様に前半の説明はよいが、後半の「より身近な生活スタイルを感じさせるものへと変わっている」が×。「設定されたその物語の枠組」から解放されて、「どんな物語にも転用可能なプロトタイプ」へと変化したのである。

⑤は、前半もおかしいが、後半の「自由な想像力を育むイメージ・キャラクターとして評価されるものへと変わっている」が特に×。リカちゃんの捉えられ方の変化は、「自由な想像力を育む」かどうかの問題ではない。

正解 ⑥ ①

問3 傍線部説明問題 標準

傍線部B「人びとに共通の枠組を提供していた『大きな物語』とあるが、この場合の「人びと」と「大きな物語」の関係はどのようなものか。その説明として最も適当なものを一つ選べ。

まず、傍線部が文の途中から途中に引かれているので、文末まで読んで、ここでいう「大きな物語」はかつて存在したが、今は失われてしまっているという事実をつかもう。

●傍線部が一文全体に引かれているのではなく、文の途中から途中に引かれている場合、傍線部の前後をしっかりと読んで理解してから解く。

今では失われてしまった「大きな物語」についての説明は、傍線部の次の段落、第5段落に次のように書かれている。

- ・振り返ってみれば、「大きな物語」という揺籃よつらんのなかでアイデンティティの確立が目指されていた時代。
- ・アイデンティティとは、外面的な要素も内面的な要素もそのまま併存させておくのではなく、揺らぎをほらみながらも一貫した文脈へとそれらをシウウソクさせていこうとするもの。

これを読むとわかるように、問われている「大きな物語」と「人びと」との関係は、アイデンティティの確立に関係したものだ。選択肢の記述は前半がすべて同じなので、中々後半を比較検討していくことになる。ここではある程度の言い換えをしてある選択肢を選ぶ力が必要だが、次のような関係をつかんで正解は②とわかる。

○本文の記述：外面的な要素も内面的な要素もそのまま併存させておくのではなく、揺らぎをほらみながらも

≡

○選択肢②の要素：…自己の外面的な要素と内面的な要素との隔たりに悩みながらも

○本文の記述：一貫した文脈へとそれらをシウウソク（収束）させていこうとする

≡

○選択肢②の要素：矛盾のない人格のイメージを追求していた

以下、本文に書かれていなかったり、誤った内容を含んだりしている箇所を挙げておこう。

①は、「臨機応変に複数の人格のイメージを使い分けようとしていた」が×。アイデンティティ、つまり人格は一貫したものと収束されていくものだった。

③は、「社会的に自立した人格のイメージを手に入れようとしていた」が×。「社会的」「自立」という内容は書かれていない。

④は、「自己の外面的な要素と内面的な要素」を「重ねあわせ」としているところが×。「重ねあわせ」るのではなく、二つの「隔たりに悩む」ものだ。また、「生まれもった人格のイメージを守ろうとしていた」も×。ここでの人格は「生まれもった」ものではなく、次第に形成されていくもの

だ。

⑤は、「自己の外面的な要素と内面的な要素」を「合致させながら」としているところが×。④と同様、「合致させ」るのではなく、二つの「隔たりに悩」むものだ。また、「個別的で偽りのない人格のイメージを形成しようとしていた」も×。そうした内容は本文に書かれていない。

正解 7 ②

問4 理由説明問題 標準

傍線部C「生身のキャラにも、単純明快でくつきりとした輪郭が求められる」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを一つ選べ。

この設問も、傍線部が文の途中に引かれていることに気を付けて読解する必要がある。傍線部Cの直後に「そのためでしょう」とあるところを読み落とさないことが大切だ。

●傍線部が一文全体に引かれているのではなく、文の途中に引かれている場合も、傍線部の前後をしっかりと読んで理解してから解く。

C 生身のキャラにも、単純明快でくつきりとした輪郭が求められるのはそのためでしょう。

ここでは、傍線部の直後に「そのため」とあるので、理由説明が求められているこの間においては、指示語の指し示す箇所が大きな手がかりになることをつかむ。指示語で指示されているのは二つの段落（第10、11段落）の内容なので、まとめてみよう。

- ・ハローキティやミッフィーなどの最小限の線で描かれた単純な造形は、私たちに強い印象を与え、また把握しやすいもの：第10段落
- ・そうした特徴を持つハローキティやミッフィーはいまや特定の文化を離れて万国で受け入れられている：第11段落
- ・生身のキャラも同様で、人格の多面性を削ぎ落とし、限定的な最小限の要素で描き出された人物像は、錯綜した人間関係を単純化し、透明化してくれる：第10段落

・きわめて単純化された人物像は、どんなに場面が変化しようとする臨機応変に対応することができる…第11段落

以上の内容をきちんと説明している④が正解。選択肢が長いので、本文と照合するのに手間取るかもしれないが、問3ほど言い換えの力を要求していないので、丁寧に照合してほしい。

①は、後半の「他人と自分との違いが明確になり、互いの異なる価値観も認識されやすくなる」は、「そのため」が指し示している内容を全く含んでいないので×。

②は、後半に「個性がはつきりして際だっているほうが、他人と交際するときには自分の性格や行動パターンを把握されやすくなる」とあるが、本文にはそうした個性とその結果について全く書かれていないので×。

③は、「多面性を削ることによって個性を堅固にしたほうが」とあるが、多面性を削ることによって「個性が堅固になる」のではなく、「単純化される」とすべきところだ。また、その結果として「文化の異なる様々な国での活躍が評価される」わけでもないで×。「単純化され」ることで「どんなに場面が変化しようとする臨機応変に対応することができ」るようになり、その結果として、「いまや特定の文化を離れて万国で受け入れられている」のである。

⑤は、「人物像が特定の状況に固執せずに素朴であるほうが」が×。「固執せずに素朴であるほうが」という内容は書かれていない。

正解 8 ④

問5 本文の趣旨を問う問題 標準

次に示すのは、この文章を読んだ五人の生徒が、「誠実さ」を話題にしている場面である。傍線部D「価値観が多元化した相対性の時代には、誠実さの基準も変わっていかざるをえないのです。」という本文の趣旨に最も近い発言を一つ選べ。

こうした出題形式は、センター試験では、96年以來の出題となる。近年のセンター試験では出題されていなかったもので、戸惑った人もいたかもしれないが、要するに本文の趣旨を把握し、それに最も近い発言をしている生徒を選べばよい。その点では、「内容合致問題」同様、「消去法」で解いていくほうが確実といえる。

まずは、確実に間違っている発言から×にして落としていこう。

①は、「自分が信じる正しさを貫き通さない」とが×。傍線部Dにもあるように、「価値観が多元化した相対性の時代」においては、「自分が信じる正しさを貫き通す」とよりも、「誠実さの基準も変わっていかざるをえない」と筆者は考えている。

②は、①の発言に対して反論しており、内容的にも×が付く箇所がないので、とりあえずキープしておく。

③は、②の発言内容を踏まえての意見だが、「まずは自分に対して誠実でなくっちゃ」が×。傍線部の直前に「自分をキャラ化して呈示することは、他者に対して誠実な態度」とあるように、ここでの「誠実さ」は他者に対してのもの。

④は、「自分らしさを抑えて、キャラになりきることのほうが重要」と発言している点が×。傍線部Dを含む段落の直前の14段落に、キャラは「ある側面だけを切り取って強調した自分らしさの表現であり、その意味では個性の一部なのです」とあるように、キャラ化することは、「自分らしさを抑え」ることではない。

⑤は、「他者に対する誠実さそのものが成り立たない時代に来ているんだよ」が×。筆者は、他者に対する「誠実さ」は、基準は変われどかつて今の時代も存在すると考えている。また、「相対性」の捉え方として「自分らしさにこだわるのも、こだわらないのも自由」と発言している点も×。ここでの「相対性の時代」というのは、絶対的なアイデンティティが成立せず、多様で複雑な人間関係の破綻を回避するために、相互に協力しあって外キャラを演じあっている時代のことを意味している。

以上、②以外はすべて×が付いて落ちるので、正解は②と確定する。

正解 9 ②

問6 文章の表現と構成・展開を問う問題 (i)基礎 (ii)標準

この問6は、年によってやや傾向が変化する問題だ。昨年は「表現に関する説明として適当でないものを二つ選ぶ問題」で、一昨年は今年と同様「文章の表現と構成・展開を問う問題」で、(i)と(ii)の二つに分かれている点も同様の形式だ。ただし、一昨年は「適当なものを選ぶ問題」であったのに対し、今年「適当でないものを選ぶ問題」である点が異なっている。来年以降、どのような形式や内容になるかは不明だが、受験生としてはどんな設問にも対応できる実力を付けておいてほしい。

(i) この文章の第1〜5段落の表現に関する説明として適当でないものを一つ選べ。

この問6の「内容合致」や「構成・展開」に対する解法としては、基本的に「消去法」で解く。選択肢を客観的に把握するために、要素に分け、そ

れを本文の内容、構成や表現と照らし合わせながら、正確に○×の判断をしていく。判断に迷う場合は△にして通過しておき、二度目に最終決断を下すよう、慎重に解いていこう。

ただし、今回の問題では「**適当でないものを選ぶ**」ので、消去法スタイルで×が付いた選択肢が正解ということになる。

①の、第1段落の第4文の「生活スタイルを演じてくれる」の「(〜て) くれる」は補助動詞で、動詞の連用形に接続助詞「て」を添えた形に付く。この場合、人が自分の側に対して何かをすることを表しており、対等の間柄か、または目下の関係にある人に対して用いる。目上の人に対して尊敬の意を表す場合は「くださる」を用いるのが普通だ。①では、「(〜て) くれる」と表現することで、「演じる側から行為を受ける側に向かう敬意を示している」とあるが、「(〜て) くれる」は敬意表現ではなく、間違っているので×。この時点で正解は①と決まる。

以下、正しい説明になっているかどうかを確認していこう。

②と③の説明は特に問題なく、正しい。

④は、少し迷ったかもしれない。「揺らぎをほらみながらも」という表現における「ほらむ」という言葉は、「妊娠する」という意味以外に、「その中に含み持つ」意味をもっている。ここではその用法だ。④ではそれを、「外側から見えにくいのが確かに存在するものであることを暗示している」と説明しており、正しい。

正解 10 ①

(ii) この文章の第7段落以降の構成・展開に関する説明として**適当でないもの**を一つ選べ。

(i) 同様に「消去法」で解いていこう。×が付いた選択肢が正解ということになる。

①は、「では」で始まる第7段落の位置づけの説明。第7段落の最初の一文の文末を見ると、「ででしょうか」と新たな問いを提示しており、続けてその問いかけに対する論点を二つ挙げて説明しているのが、①の説明は正しい。

②は、「第10、11段落」についての説明だが、第10段落で具体的なキャラクターを挙げている点や、第11段落で、そのキャラクターの考察を別の観点からしている点を確認し、正しいと判断できる。

③は、「第12段落」についての説明だが、前半の説明は正しいが、後半の「それまでとはやや異質な問題を提示し、論述方針の変更を図っている」が間違っている。×。「第10、11段落」で挙げられた具体的なキャラクターを通じての考察に加えて、ついに百貨店やコンビニエンス・ストアの店

員たちも「外キャラ」を一面的に演じてくれるようになってきたことを述べているのが「第12段落」といえる。つまり、「第10、11段落」と「第12段落」の間には、「異質な問題」はなく、「論述方針の変更を図っている」ともいえない。この時点で正解は③と決まる。

④は、「第13、14段落」の内容を確認すればわかるように、正しい説明になっている。

正解

11

③

第2問 小説 佐多稲子「三等車」

〔総括〕

昨年は現代作家である小池昌代の「石を愛でる人」が出典であったが、今年は一九五〇年代に書かれた佐多稲子の「三等車」の全文が出題された。私小説ともいえる内容で、やや古い作品だが、登場人物が少なく場面転換もさほど多くないので、そうした点で読解に苦勞することはないはずだ。二年ぶりに全文での出題で、分量・出題形式は昨年同様。ただし、会話が多いため、昨年よりもページ数が2ページほど増加している。

設問別では、問1の語彙の問題は例年より易しい。問2や問5で本文の広い部分から解釈する必要があるので、やや解答に手間取るものもあるが、総じて例年どおりの傾向であった。問6は第1問の「評論」同様、「適当でないもの」を選ぶ問題が出題された。

〔解説〕

- 問1 語句の意味の問題 (ア) 基礎 (イ) 基礎 (ウ) 基礎

傍線部(ア)～(ウ)の本文中における意味として最も適当なものを、それぞれ一つずつ選べ。

「本文中における意味」を問う問題ではあるが、あくまで「辞書的な意味を優先して解く」というのは例年どおりの鉄則パターン。今年の問題に限らず、こうした慣用表現には日頃からいろいろな媒体を通して慣れ親しんでおき、語彙力を増強してほしい。下手に文脈に戻して判断すると間違える可能性がでる問題が出題されている。

(ア)の「目くばせした」は、「目を動かして、意思を伝えたり合図をしたりすること」で、⑤「目つきで合図した」が正解。

(イ)の「無造作に」は、「大事なこととして慎重にするのではなく、手軽にやっつけてのける様子」の意で、ここでは③「慎重にやらず投げやりに」が正解。  
 (ウ)の「見栄もなく」の「見栄」は、「人の目を気にして、うわべ・外見を実際よりよく見せようとする態度」の意味で、簡単に言うところ「体裁」と。その「見栄」が「ない」ことなので、②「自分を飾って見せようともせず」が正解。

- 正解 (ア) 12 (イ) 13 (ウ) 14

問2 心情説明問題 基礎

本文1行目から30行目までで、闇で買った座席に着くまでの私の様子が描かれているが、そのときの心情の説明として最も適当なものを一つ選べ。

「本文1行目から30行目まで」のように、ある程度幅のある部分の読解を前提とした問題は、センター現代文でよく出題されるものだ。ここでは、前書きの内容も含めて、本文1行目から30行目までの登場人物の置かれている情景と心情を正確に追っていかう。そのうえで、**選択肢に書かれた内容を本文と対照しながら「消去法」で落として正解にたどり着くのがコツだ。**

①は、「闇で座席を買ったことをうしろめたく思いながら」が18行目の「私は周囲に対して少し照れながら」とあるところと対応している。「その座席が他の乗客と同じ金額であったこと」「混雑した車中で座っていられることに安堵している」も18行目以降、特に23行目からの婦人との会話で語られている内容と合致している。18行目の「ほっとした」という感想は満員電車の中で座席に座れたことに対してのものであり、28行目の「安心して」は五十年配の婦人も自分と同じ金額で座席を買ったことを知ったことによる安心だ。とりあえず①は残してキープしておこう。

②は、「見知らぬ男に声をかけられてためらいながら」が×。12行目に「座席を闇で買うのは初めてだった。が話は聞いていたので、私はその男との応対も心得たふうに言って」とあるように、見知らぬ男との会話は「ためらいながら」交わっていたわけではない。また、「前に座っているのが年配の女性であることに安心して」もおかしい。「年配の女性」であることよりも、①のように「その座席が他の乗客と同じ金額であったこと」「混雑した車中で座っていられることに安堵している」と考えられる。

③は、「闇で座席を買われたことを耐えがたく思い」が×。「私は周囲に対して少し照れながら」程度であって、「耐えがたく」は言い過ぎ。

④は、「闇で座席を買ってしまったことに罪の意識を感じ」が◎同様言い過ぎで×。

⑤は、「闇で座席を買ったことを恥ずかしく思いながらも」は問題ないが、「次の仕事の準備ができることにほっとしている」がズレていて×。ここで「ほっとした」理由は、①でみたように、「その座席が他の乗客と同じ金額であったこと」「混雑した車中で座っていられることに安堵している」と考えるのが適当だ。

以上、キープしておいた①以外の選択肢はすべて×が付いて落ちるので、正解は①。

正解 15 ①

問3 心情説明問題 基礎

傍線部A「何か私の方が残念な気がして言い出す。」とあるが、このときの私の心情はどのようなものか。その説明として最も適当なものを一つ選べ。

ここで「私」が「残念」に思ったのは、夫のほうは夫婦喧嘩したあと、たかぶった気持ちを静め、思い直してホームで息子のことを最後まで見送っていたのに対して、母親の方はそれを知らず、夫は自分たちを放ったまま帰ったのだと思ひ込み、夫婦喧嘩したままの心理状態であることである。「私」はそうした誤解したままの母親に対して「残念」に思い、なんとか夫の優しい様子を伝えたいと思ったのである。

傍線部の直前を読むと、「彼女は、言い合いのまま車を出ていった夫が、やっぱり発車までホームに残っていたということを知らずにいるのだ」とあり、そこで「残念」に思った「私」が傍線部の直後で母親に対して「汽車が出るとき、子どもさんはお父さんと握手しましたよ」と声をかけている。傍線部の前後から、何が原因なのかと、「私」がどうしたいのかを的確につかもう。

また、ここでおせっかいにも「私」が母親に声をかけた理由としては、「私」がこの若い夫婦と子どもたちのやりとりや一連の様子を近くで見ている、男の子を預かったりしているうちに、知らず知らずのうちに感情移入し、同情心が湧いてきたと考えられる。

これらを過不足なく説明している選択肢は④で、これが正解。

①は、「座席を買えずに子どもや荷物を抱えて汽車に乗る母親の苦労が思いやられた」はよいとして、「父親の示した優しさを彼女に伝えて二人を和解させたいと思った」が言い過ぎ。二人を「和解」させるところまで踏み込んだ発言をしていないし、「私」がそこまで思っているという根拠は本文には書かれていない。

②は、「父親と男の子が別れを惜しむ場面に共感してしまい」が×。「私」は子連れ夫婦たちの一連のやりとりを見ていたり、男の子を預かったりしているうちにその家族全体に共感を持ち、同情心が湧いてきたのであって、「父親と男の子」の姿だけに共感したわけではない。また、汽車を見送る時に最後に夫が示した父親らしい優しさを妻にもわかってほしいという「私」の気持ちに関しても、「単身で東京に残る夫のことを思いやってほしいと訴えたくなった」という説明ではズレているので×。

③は、「自分が座っていられる立場にある以上、夫婦のいざこざを放っておいてはいけない」と考えたかどうかは本文に根拠がないので×。本文に確実な根拠がなく、よく読むと実は書かれていない内容を、想像力で勝手に作りあげた選択肢を選ばないよう気を付けた。

④は、先ほどの説明とおりの内容で問題なくこれが正解。

⑤は、「周囲の物珍しさで寂しさを紛らわそうとする男の子の心情を理解してほしくなった」と、男の子に焦点を合わせている点が×。

正解 16 ④

問4 心情説明問題 標準

傍線部B「彼女は二人の子どもを連れ、明日までの汽車の中にようやく腰をおろしたふうだ。」とあるが、私の推察している彼女の心情はどのようなものか。その説明として最も適当なものを一つ選べ。

問3の傍線部A以降、「私」と子連れの若い母親との会話が続く。途中、会社員の男や中年の婦人、子どもたちの様子も少し描写されるが、基本的に二人の会話が主体だ。したがって、ここでは二人の会話の流れをつかみ、選択肢と照合していくことで正解に至ることになる。長い選択肢なので、要素に分けて○△×をしていく「消去法」で解いていこう。

①は、「子育てに理解を示さない夫のぶっきらぼうな言い方にいらだちを募らせていた」が×。母親のいらだちの理由を「ぶっきらぼうな言い方」と限定するのではなく、94行目や106行目にあるように、「もう少し気を利かしてくれればいい」「男って、勝手ですわね。封建的ですわ」と、男性の考え方や行動全般に対する不満と解釈すべきだ。

②は、肝心の夫に対する不満についての記述がないので×。問3の傍線部A以降、二人の会話の話題の中心は、夫と妻との関係や夫婦をとりまく環境に関してのものだ。

③は、「夫の無理解に対する不満を口にしてしまった」が、①で挙げた箇所該当する。次の要素である「その思いを周囲の乗客が同調するように聞いてくれた」というのも、「私」や会社員の男の様子(107行目)、中年の婦人の様子(110行目)などの描写から正しい説明といえる。そして、母親の態度が、「いらだちが多少和らいだ。今は、二人の小さな子どもを抱えて長い距離を移動する気苦労を受け入れるくらいに、落ち着きを取り戻している」という説明も傍線部Bの言い換えとしての確で、問題ない。この選択肢をキープしておく。

④は、前半の「出発前の〜なんとか車内へ戻ることができた」は本文の内容に沿って事実としては正しいといえるが、そこから「乗り込むのさへ困難な三等車に乗り遅れることもなく母子三人で故郷に帰れることにほっとしている」という結果に結びつけただけでは、傍線部Bの説明になっていない。夫や周囲の人々との関係性に一切触れていないので全体×といえる。

⑤は、前半の説明は④同様、事実としては正しいが、これだけでは問いに対する解答になっていない。次に、「赤ん坊にミルクを飲ませ、じっとしていられない男の子も眠り始めた」以降に母親の不満話が始まったのではなく、94行目以降すでにそうした話を始めているので、「今は、鹿児島に戻らなければならない事情や夫婦間の不満をまくし立てるほど、周囲に気を許している」が決定的に×。時系列が間違っていると見える。また、116行目に「ぼそぼそと話す」とあるように、「まくし立てる」というよりも「ぼそぼそと」話しているの、この点も×が付く。

以上、③以外の選択肢はすべて×がついて落ちるので、正解は③。

正解 17 ③

問5 心情説明問題 基礎

傍線部C「父ちゃん来い、父ちゃん来い」とあるが、この男の子の様子や声をめぐって私はどのようなことを考えているか。本文全体もふまえた説明として最も適当なものを一つ選べ。

これも、問4同様、選択肢が長く、たくさんの要素で構成されているので、消去法で解いていこう。

①は、「男の子」が「車内の騒がしさに圧倒されておとなしくしていた」が×。男の子のおとなしさについては、130行目に書かれているように、「我が家の空気を感じ取って、気兼ねをしていた」ことが理由だと「私」は推測している。

②は、「男の子」が「まだ幼い」ので、「両親や周囲の大人に対して気持ちをうまく言葉にできないでいる」という点をどう判断するのだが、これは問いにもあるように文章全体をふまえて見ていくしかない。34行目以降に登場する子連れ夫婦の様子をたどっていくと、男の子は母親との会話で不安げな返事を「ウン」と一言するばかりだったり、父親の別れの言葉に無言でいたりすることが読み取れる。つまり、「まだ幼い」ので、自分の気持ちを「うまく言葉にできないでいる」と判断できるのでOKだ。後半の、「窓の外の風景に気を取られながら発した弱々しい声は、父親に自分のそばにいてほしいという願望を表しているかのようだ」、「私は、男の子の様子をいじらしく感じて、この家族のことを気がかりに思っている」という説明は、特に問題ない。この選択肢をキープしておく。

③は、「男の子」が、「父親の怒りっぽい性格のために家族がしばしば険悪な雰囲気になることを感じ」という説明の根拠が本文に書かれていないので×。しかも、「車外の風景でその悲しみを慰めている」も間違っている。最後の「私は、男の子の様子や声を通じて、この家族の悲哀を感じてい

る」というのも言い過ぎで×。

④は、前半はまだよいとして、後半の「家族に対する父親の態度が改まることを願っている」が本文からは読み取れず×。父親の態度としては、最後にホームで見送っているところで優しさを示しており、それを「私」が母親に伝えようとさえしたくらいなので、今さら「私」が「家族に対する父親の態度が改まることを願っている」と考えるのはおかしい。

⑤は、「男の子は父親のことだけは信頼しているようだ」とする根拠が本文にない。本文では、母親の差し出すおむすびを笑って受け取って食べるなど、男の子が問題なく母親になついている様子が読み取れる。そして、「男の子のつぶやきは、そうした父親と男の子との絆を表しているかのよう」も根拠がなく×。「私」が「父親が家族に愛情を注ぐことを祈っている」という結論も父親だけに焦点を絞った間違った説明だ。

以上、②以外の選択肢はすべて×が付いて落ちるので、正解は②。

正解 18 ②

問6 表現の特徴・叙述の説明問題 基礎～標準

この文章の表現に関する説明として**適当でないもの**を二つ選べ。(順不同)

昨年は「適当なもの」を「二つ」選ぶ問題だったが、今年は「**適当でないもの**」を二つ選ぶ点で注意が必要だ。解法としては、選択肢を要素に分けて○△×を付け、基本的に消去法で解くのが確実。また、選択肢同士を比較して解くという視点も有効だ。

●「表現の特徴」や「叙述の説明」で二つの正解を選ぶ場合、一つはすぐに正解とわかる場合が多く、もう一つの正解はすべての選択肢を消去法で確認した後、残ったものを選ぶという手順を取る。

一つずつ選択肢を見ていこう。

①は、三等車内の「一体感」についての説明だが、20行目での「一体感」が135行目では「一体感が徐々に壊れ始めている」と判断するのは間違いだ。20行目では、汽車内の混雑した様子を表しており、135行目では、乗客が疲れから寝たり話をしなくなったりした様子を表しているに過ぎず、「一

「体感」の有無を表しているわけではないので×。これが一つ目の正解だ。

②は、37、73、89行目に描かれた身なりや持ち物の様子が、「この家族の生活の状態やその暮らしぶりが私とは異なることを読者に推測させる効果を持っている」かどうかだが、これは判断が難しい。単なる写実的な描写をしたに過ぎない可能性もあるので△で通過しておこう。

③は、たしかに「赤ん坊の泣く様子が詳細に描かれている」ことよって「出発前の慌ただしく落ち着かない様子や夫婦の険悪な雰囲気が、より強調されている」と判断できる。読者に、汽車の中の様子と、夫婦がどうい関係にあるかを印象付ける描写であることは間違いない。

④は、99行目から115行目にかけての母親のセリフは、「昨年からの東京暮らしに対する我慢できないiraだちが語られている」という点は正しい。「短いセリフと長いセリフを交互に配したり、読点を多用したりする」という説明も問題ない。しかし、最後の「母親が話をするにつれ次第に気持ちが高ぶらせていく様子」という説明がおかしい。問4で見たように、99行目から115行目にかけては、問4の傍線部Bの説明で見たように、母親は次第に落ち着きを取り戻していく箇所であり、「母親が話をするにつれ次第に気持ちを高ぶらせていく」とは逆の心情的な流れであることに気が付いてほしい。この点が決定的に間違っているので×だ。△で通過しておいた②は正解でないと判断し、④が二つ目の正解となる。

●「表現の特徴」や「叙述の説明」のように、全体に関係する問題を解く場合は、他の問いも必ず参照する。問いと問いとが連動している可能性がある。るので、全体を有機的につなげて見直そう。

⑤は、全体的に問題のない説明になっている。119行目からの段落では、「家族を思う父親の心情や状況に私が思いをめぐらせる様子が、効果的に表されている」といえる内容と文末表現になっている。

⑥は、「母子と別れた後の父親を私が想像する部分にはこの部分以前に言及されていた情報がある」という説明は正しい。次に、「これらは私の想像が実際の観察をもとにしていることを表している」という点も問題なく、特に×にする要素がない。

正解 19・20 ①・④ (順不同)